

平成14年(2002年)7月3日 水曜日

坂戸工作所⑬

北野靖志の「元気が行く」

現場リポート・元気印経営の秘密

「大手メーカーとはあくまでも商品差別化で」にかけた。良質の国産

坂戸工作所。二年前から解体機のボディー鋼板にスウェーデン製鋼板を採用し

スウェーデン鋼板手中に

性のある機械を「耐久性を考えれば厚い鋼板を使えばよいが、それで本体が重くなり、解体機のパワーもその分だけ落ちる。実際、それまで使用していた国産の六〇K級鋼板よりも、引張り強度の高い八〇K級鋼板を使ってみたが、曲げや耐久性で問題が

『坂戸工作所』
社長=坂戸誠一氏
住所=千葉市花見川区
☎043・259・0131
業種=解体機械製造業
資本金=5720万円
設立=1945年4月
従業員数=30人
年間売上高=9億円
(2002年度見込み)

格の外国鋼板に切り替えたのは、「軽量、小型でしかも耐久性にもすぐれた高性能機で勝ち残る」との企業戦略からだ。

か、あえて高価な手に入るな

か、あえて高価な手に入るな

の鋼板を採用している。話は二〇〇〇年春にさかのぼる。内外での評判から

軍基地改修工事に使用する

軍基地改修工事に使用する